

水稻生育診断速報 2026 No.1

令和8(2026)年6月1日
農政部経営技術課技術指導班

☆☆☆ 生育概況（5月25日調査）と今後の対応 ☆☆☆ コシヒカリ、とちぎの星とも、高温の影響により急激に茎数が増加しています。必要茎数が確保されたら速やかに間断かん水を開始しましょう。

＜早植コシヒカリ＞8地点平均
草丈：平年と比較して短い（平年比（以下同）94%）
茎数：平年と比較して多い（112%）
葉齢：平年より0.4進んでいる
葉色（葉緑素計）：平年並
＜早植とちぎの星＞4地点平均
草丈：平年と比較して短い（96%）
茎数：平年と比較して多い（114%）
葉齢：平年並
葉色（葉緑素計）：平年と比較してやや淡い

【早植とちぎの星】県内4カ所

とちぎの星もコシヒカリと同様に活着が良好で分けつが進み、茎数が確保されました。草丈もコシヒカリと同様に移植時の苗丈が短かったことから平年より短くなりました。葉齢は平年並、葉色（葉緑素計（SPAD）はやや淡くなっています。

草丈は真岡市で平年並（101%）でしたが、その他の地点は短く（90～97%）、県内平均はやや短くなりました（96%）。茎数は、農業総合研究センターで平年並（99%）、その他の地点では多く、県内平均は多くなりました（114%）。葉齢は、農業総合研究センターで遅れていますが、その他の地点は平年並～進んでおり、県内平均では0.1進んでいます。葉色（SPAD）は宇都宮、真岡市で濃く、さくら市、農業総合研究センターでは淡く、県内平均でやや淡くなりました。また、葉色板はバラツキが大きくなりましたが、県内平均でやや淡くなりました。

【農業総合研究センター調査】分けつ発生率、葉面積、乾物重（全量基肥栽培について）

コシヒカリ、とちぎの星ともに主茎第1節、第2節の分けつは平年より多く、第3節の分けつ発生は少なくなりました。高温の影響により分けつが急激に進んでいます。

今後、生育初期の生育を制御することが重要となります。

草丈が平年より短いことから、葉面積は狭く、乾物重は軽くなっています。

○気象概況

4月の天気は、数日の周期で変わりました。27日は低気圧が伊豆諸島付近を東進したため広い範囲で雨が降り、大雨となった所もありました。暖かい空気に覆われやすく、上旬と中旬を中心に気温はかなり高くなりました。

5月上旬は、曇りや雨となった日が多くなりました。1日と8日は、雷を伴い激しい雨の降った所がありました。

5月中旬は、晴れた日が多くなりましたが、13日から14日にかけては雷を伴い非常に激しい雨の降った所がありました。

○生育調査結果

【早植コシヒカリ】県内8カ所

移植後、5月中旬の気温が平年よりかなり高く経過したため活着は良好で分けつが進み、茎数が確保されました。また、移植時に苗の葉齢が平年より進んでいたことから葉齢は進んでいます。草丈は、移植時の苗丈が短かったことから平年より短くなりました。葉色（葉緑素計（SPAD）は平年並となっています。

草丈は、塩谷は平年より長く（平年比（以下同）110%）、その他の圃場では短く（84～98%）、県内平均は短くなりました（94%）。茎数は、那須町がやや少なく（97%）、鹿沼市は少なく（95%）、その他の地点は高温により分けつが進んだことで平年並～多く（99～133%）、県内平均は多くなりました（112%）。葉齢は、平年並～進んでおり県内平均では0.4進んでいます。葉色（SPAD）は、那須町、那須塩原市で平年より淡くなりましたが、その他の地点では平年並～濃く、全体的にはほぼ平年並となりました。葉色板は、宇都宮で平年より淡くなりましたが、全体では濃い傾向（平年差+0.3）となりました。

気象庁 関東甲信地方1か月予報（5月21日発表）

天候：期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

降水量：降水量は、多い確率50%です。

気温：1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量の各階級の確率（%）			
気温	関東甲信地方	06月～08月	10 20 70
		06月	10 30 60
		07月	10 30 60
		08月	10 30 60
降水量	関東甲信地方	06月～08月	30 30 40
		06月	30 30 40
		07月	30 40 30
		08月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

□■□ 今後の技術対策 □■□

(1) **必要茎数が確保**されたら「**間断かん水**」開始

今年は、気温が高く経過しているため、早めに植えた所や、地力の高いところ、植付本数が多いところなどは、急激に茎数が増えています。また、今年の夏も暑くなることが予想されています。茎数が多くなると穂数が増加し、籾数が増えやすくなります。籾数過剰は乳白粒等の発生の原因になることから、品質の低下につながります。適期に間断かん水に入り、茎数を整理して品質低下を避けましょう。

- 急激に茎数が増加しているほ場・・・目標茎数の8割で間断かん水開始
(県北：300本/m²、県中南：350本/m²)
- 通常の生育をしているほ場・・・目標茎数の9割で間断かん水開始
(県北：350本/m²、県中南：400本/m²)

(2) イネカメムシ対策

令和6年から県南地域を中心に発生が確認されました。令和8年2月調査結果では**県央部でも越冬虫が確認されており被害の拡大が懸念されます。**

イネカメムシは、出穂期に穂を吸汁することで不稔が発生し減収につながります。また、乳熟期の吸汁は斑点米の発生につながります。

通常の斑点米カメムシ類の防除に加え、出穂期防除が必須となります。適期防除に努めましょう。

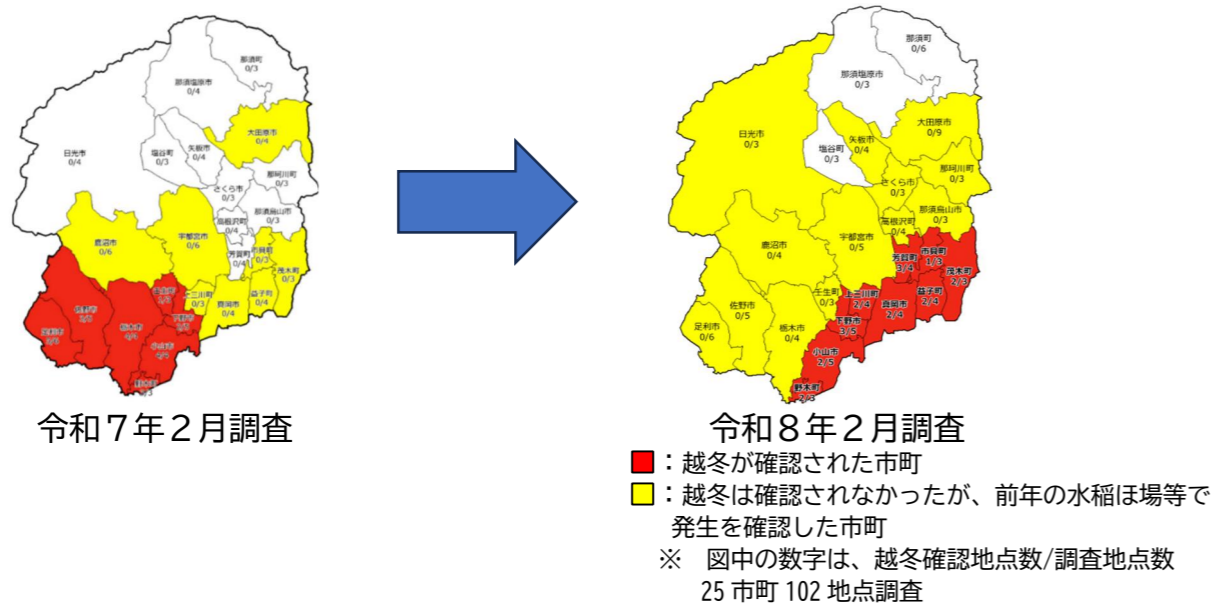


図 イネカメムシの発生地域における斑点米カメムシ類の総合防除体系

(3) 斑点米カメムシ対策

昨年の夏は記録的な高温で経過したため、カメムシの数が増加しました。また暖冬傾向で推移したため、カメムシの越冬数も多くなっています。

近年、飼料米などの作付により米の収穫期間が長く、カメムシの越冬前の栄養状態も良くなるなど、被害が多くなる環境が整っています。

水田内の除草・・・水稻出穂前に結実するノビエの穂やイヌホタルイの小穂は斑点米カメムシの誘因源・発生源となりますので、結実前に除草しましょう

周辺ほ場の除草・・・周辺の水張り水田などにイネ科の雑草やイヌホタルイが生育していると、斑点米カメムシの誘因源となるので、耕起や代かきなどを行い除草しましょう。



表 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%)

地点名	年度		
	2023	2024	2025
大田原市蛭畑	4.2	2.1	2.1
大田原市親園・実取	0.0	3.1	—
那須烏山市滝田	0	1.0	0
さくら市蓮須坂	6.3	8.3	—
さくら市押上	—	—	3.3
高根沢町花園	3.1	11.1	11.5
真岡市横田	5.2	3.1	1.0
宇都宮市横山	7.3	2.1	3.8
宇都宮市雀宮	5.2	21.9	7.1
上三川町上三川	14.6	6.3	2.3
鹿沼市酒野谷	4.2	9.4	5.4
下野市小金井	5.2	2.1	13.5
小山市小栗	3.1	3.1	—
小山市石ノ上	4.2	2.1	1.0
壬生町助谷	5.2	2.1	1.0
栃木市惣社	5.2	0	6.8
栃木市大平町真弓	4.2	11.5	1.0
栃木市藤岡町富吉	1.1	5.6	12.5
佐野市堀米	4.2	0	1.0
足利市上洗垂	2.1	0	2.1
県北部平均	2.7	5.1	4.2
県中部平均	7.3	8.5	3.9
県南部平均	3.8	2.9	4.9
県平均	4.4	5.0	4.4

2025年度の検定サンプルは、11月中旬に、水田畦畔、休耕田のイネ科雑草、一部地域では再生稲から採取した。

(4) その他の病害虫対策

《イネ縞葉枯病》

令和8(2026)年3月19日に農業総合研究センター防除課より発表された植物防疫ニュースNo.14によると、令和7(2025)年11月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県平均で4.4%と、前年よりやや低下し、平年値(過去10年間の平均値5.4%)を下回りました。しかし、今年度も地点によっては防除の必要となる10%以上の地点があり注意が必要です。ヒメトビウンカの防除を実施しましょう。

《イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ》

イネミズゾウムシの発生が目立つほ場では、有効な薬剤により防除を行いましょう(移植後2週間の水田における成虫密度が株当たり0.5頭以上で防除が必要)。多雨で湿度の高い日が続くとイネドロオイムシの幼虫発生期間が長引き、多発生になりやすいことから、今後の天候と発生状況に十分注意しましょう。

《いもち病(葉いもち)》

作物体が濡れた状態が続くと、いもち病や紋枯苗の病原菌(カビ)の萌芽や伝播が促進されて被害が拡大します。強い降雨では菌が流れてしまうのに対し、継続的な弱い降雨は感染拡大につながります。本年も断続的であるが降雨がみられていることから、感染拡大を避けるため、これまで育苗箱処理剤等を散布していない場合は、予防のため地上からの散布に努めましょう。さらに、発生時には速やかな薬剤散布を行いましょう。取り置き苗は、いもち病の発生源となるため、早めに処分しましょう。

【参考データ】

I コシカリ 〔耕種概要〕

No.	設置場所	施肥区分	播種期		移植期		栽植密度		植付本数 (本/株)	植付株数 (株/坪)
			月	日	月	日	畦間(cm)	株間(cm)		
1	那須町寺子丙	全量基肥	4	12	5	10	29.7	16.8	4.4	66.2
2	那須塩原市一区町	全量基肥	4	2	5	2	31.2	17.6	4.6	60.2
3	塩谷町玉生	全量基肥	4	7	5	4	30.0	17.3	3.4	63.6
4	那須烏山市南大和久	全量基肥	4	13	5	10	29.5	18.0	4.7	62.1
5	日光市木和田島	全量基肥	4	6	5	4	30.0	17.7	4.0	62.1
6	鹿沼市久野	全量基肥	4	5	5	5	30.1	20.7	4.1	53.0
7	宇都宮市川田町	全量基肥	4	3	5	3	29.9	18.1	3.3	61.0
8	芳賀町東水沼	全量基肥	4	1	5	5	30.0	18.2	4.6	60.4
9	小山市生井	全量基肥	4	6	5	2	29.9	18.1	4.5	61.0
10	農業総合研究センター	全量基肥	4	10	5	7	30.0	15.0	4.0	73.3
	平均	平均	4月6日	5月5日			30.0	17.8	4.2	62.3

〔苗調査結果〕

No.	苗草丈(cm)			乾物重(g/100本)			苗葉齢		
	本年	平年	平年比(%)	本年	平年	平年比(%)	本年	平年	平年差
1	14.2	13.8	103	1.60	1.75	92	2.5	2.8	-0.3
2	10.3	15.5	66	2.10	1.67	126	3.0	3.1	-0.1
3	13.4	17.6	76	2.47	1.99	124	2.7	2.8	-0.1
4	13.0	13.3	98	2.03	1.60	127	3.0	2.7	0.3
5	13.2	14.3	92	1.57	1.61	97	2.7	2.5	0.2
6	16.8	14.8	113	1.88	1.88	100	2.9	2.7	0.2
7	13.5	14.1	96	1.87	1.57	119	3.1	2.7	0.4
8	16.9	15.8	107	1.50	1.65	91	2.6	2.8	-0.2
9	11.3			1.40			2.6		
10	13.1	13.0	101	1.50	1.43	105	3.1	2.4	0.7
平均	13.9	14.9	94	1.81	1.69	107	2.8	2.7	1.0

平年値について令和3～7年の5カ年平均。

那須烏山市は令和7年にほ場が変更になったため前年値との比較。また、移植日が大幅に遅れたため平均から除する。

小山市は令和8年にほ場が変更になったため過去値との比較は行わない。また、全体平均からも

〔コシカリ本田における生育調査結果〕

No.	設置場所	草丈(cm)			1株本数			茎数(本/m ²)			葉齢			葉色(葉緑素計)			葉色(葉色板)			葉色×茎数		
		本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	比(%)
1	那須町寺子丙	20.7	24.5	84%	4.5	5.0	89%	89	92	97%	4.7	4.7	0.0	16.1	21.9	-5.8	2.9	2.7	0.1	257	251	102%
2	那須塩原市一区町	28.8	29.4	98%	12.7	10.6	120%	232	189	123%	6.2	6.1	0.0	31.2	32.3	-1.0	4.9	3.8	1.0	1,124	727	155%
3	塩谷町玉生	29.1	26.4	110%	6.6	5.7	116%	127	99	128%	5.7	5.2	0.5	35.2	29.8	5.4	4.4	3.8	0.6	560	375	149%
4	那須烏山市南大和久	24.3	30.1	81%	5.7	9.0	63%	107	164	65%	4.8	6.2	-1.4	26.4	34.4	-8.0	3.0	4.1	-1.1	322	672	48%
5	日光市木和田島	27.6	29.2	95%	8.2	8.1	101%	154	156	99%	6.3	5.6	0.7	32.3	30.6	1.7	4.6	3.7	0.9	710	576	123%
6	鹿沼市久野	25.4	28.9	88%	7.1	7.5	94%	114	119	95%	6.4	5.7	0.7	31.5	30.4	1.1	4.3	3.5	0.8	490	420	117%
7	宇都宮市川田町	26.2	26.8	98%	7.7	7.0	110%	142	125	113%	7.1	5.9	1.2	33.4	33.1	0.3	3.3	3.9	-0.6	474	482	98%
8	芳賀町東水沼	21.1	24.2	87%	6.4	4.6	138%	117	88	133%	5.6	5.4	0.2	25.2	25.0	0.2	3.3	3.3	0.0	387	290	133%
9	小山市生井	27.9			5.4			100			4.7			30.2			3.5			349		
10	農業総合研究センター	25.7	27.7	93%	8.2	7.6	108%	182	168	108%	5.1	5.5	-0.4	28.9	33.0	-4.1	3.1	3.4	-0.3	565	572	99%
平均	全量基肥平均	25.6	27.2	94%	7.7	7.0	109%	145	130	112%	5.9	5.5	0.4	29.2	29.5	-0.3	3.8	3.5	0.3	571	462	124%
分施	農業総合研究センター	26.3	28.3	93%	10.1	8.5	119%	224	187	120%	5.3	5.5	-0.2	29.7	33.6	-3.9	3.1	3.5	-0.4	695	650	107%

平年値について令和3～7年の5カ年平均。

那須烏山市は令和7年にほ場が変更になったため前年値との比較。また、移植日が大幅に遅れたため平均から除する。

小山市は令和8年にほ場が変更になったため過去値との比較は行わない。また、全体平均からも除する。

※葉色は葉色板の数値

IIとちぎの星
〔耕種概要〕

No.	設置場所	栽培区分	播種期		移植期		栽植密度		植付本数 (本/株)	植付株数 (株/坪)
			月	日	月	日	畦間(cm)	株間(cm)		
11	さくら市狭間田	全量基肥	4	13	5	12	30.2	18.0	3.3	60.7
12	宇都宮市下桑島町	全量基肥	4	8	5	9	29.4	17.2	2.5	65.3
13	真岡市清水	全量基肥	4	2	5	9	30.0	18.0	6.2	61.1
14	農業総合研究センター	全量基肥	4	10	5	7	30.0	15.0	4.0	73.3
平均			4	8	5	9	29.9	17.1	4.0	65.1

〔苗調査結果〕

No.	苗草丈(cm)			乾物重(g/100本)			苗葉齢		
	本年	平年	平年比(%)	本年	平年	平年比(%)	本年	平年	平年差
11	13.4	16.1	83	2.20	2.37	93	3.5	3.3	0.2
12	14.4	15.5	93	1.90	2.18	87	3.1	3.4	-0.3
13	15.6	12.6	124	1.60	1.74	92	2.7	2.7	0.0
14	11.9	11.7	102	1.60	1.53	104	2.7	2.4	0.3
平均	13.8	14.0	99	1.83	1.96	93	3.0	3.0	0.0

平年値について令和3～7年の5カ年平均。

宇都宮市は令和5年には場が変更になったため3カ年平均。

〔とちぎの星本田における生育調査結果〕

No.	設置場所	草丈(cm)			1株本数			茎数(本/m ²)			葉齢			葉色(葉緑素計)			葉色(葉色板)			葉色×茎数		
		本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	比(%)
11	さくら市狭間田	21.5	24.0	90%	3.7	3.8	97%	68	64	106%	4.9	4.9	0.0	24.6	27.1	-2.5	3.2	3.2	0.0	218	206	106%
12	宇都宮市下桑島町	24.1	25.1	96%	4.5	4.6	97%	89	85	104%	6.1	5.6	0.6	32.2	29.4	2.8	3.2	3.5	-0.3	284	300	95%
13	真岡市清水	20.5	20.4	101%	8.8	5.2	169%	162	105	154%	5.0	4.7	0.3	33.5	29.0	4.5	3.7	3.3	0.4	599	349	172%
14	農業総合研究センター	24.0	24.8	97%	8.0	8.1	99%	178	179	99%	4.9	5.3	-0.4	31.2	33.3	-2.1	3.1	3.6	-0.5	551	637	86%
平均	早植平均	22.5	23.6	96%	6.2	5.4	115%	124	108	114%	5.2	5.1	0.1	30.4	29.7	0.7	3.3	3.4	-0.1	413	373	111%

平年値について令和3～7年の5カ年平均。

宇都宮市は令和5年には場が変更になったため3カ年平均。

農業総合研究センター分げつ発生率、乾物重調査

表 R8移植後19日(5月25日)の生育調査

処理	主茎第1節分げつ(%)			主茎第2節分げつ(%)			主茎第3節分げつ(%)		
	本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)
コシヒカリ・0.0	7.5	0.0		0.0	9.7	0	0.0	15.7	0
コシヒカリ・0.3	42.5	0.5	8500	100.0	38.9	257	17.5	76.1	23
コシヒカリ・0.5(全基)	7.5	1.0	750	87.5	32.0	273	12.5	65.0	19
とちぎの星・0.6(全基)	17.5	5.5	318	60.0	56.0	107	17.5	51.5	34
とちぎの星・0.5	20.0	6.5	308	65.0	72.0	90	30.0	55.0	55

平年値について令和3～7年の5カ年平均。

表(続き)

処理	葉面積(m ² /m ²)			乾物重(g/m ²)		
	本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)
コシヒカリ・0.0	0.09	0.10	92.0	7.93	7.70	103.0
コシヒカリ・0.3	0.15	0.16	91.9	12.93	11.84	109.2
コシヒカリ・0.5(全基)	0.13	0.14	94.3	10.67	10.97	97.3
とちぎの星・0.6(全基)	0.11	0.16	71.3	9.15	10.98	83.3
とちぎの星・0.5	0.16	0.16	96.9	11.15	12.19	91.5

平年値について令和3～7年の5カ年平均。

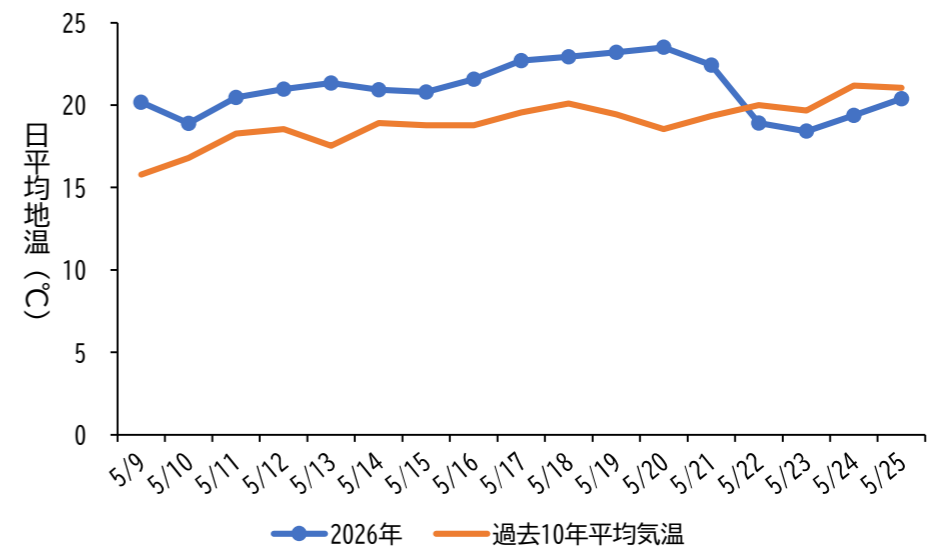


図 農研センターにおける平均地温の推移